

ホクコーオルトラン®水和剤

■種類名：アセフェート水和剤
 ■有効成分：アセフェート----- 50.0%
 ■PRTR法指定物質：アセフェート [第1種] ----- 50.0%

■登録番号：第13175号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1973.10.30
 ■性状：類白色水和性粉末 63μm以下
 ■有効年限：5年
 ■包装：100g×100袋、500g×20袋
 1kg×10袋(北海道のみ)

【特長】

- 広範囲の害虫に効果のある有機リン系殺虫剤。
- 作物への浸透作用が大きく茎葉から吸収され、安定した効果を発揮する。
- 果樹、野菜、畑作物、茶、花類、芝と適用作物が広い。

【適用内容】(2018年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数				
キャベツ	アザミウマ類	1000	100~300 g/10a	収穫30日前まで	1回	散布	2回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は1回以内)				
	ヨトウムシ、ハスモンヨトウ タマナギンウワバ	1000~1500									
	アオムシ、コナガ	1000~2000									
はくさい	アブラムシ類	1500~2000									
	カブラハバチ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1500									
レタス	アザミウマ類、アブラムシ類 オオタバコガ	1000						3回以内	3回以内	3回以内	
非結球レタス	ヨトウムシ	1000~1500									
カリフラワー	アザミウマ類、アブラムシ類 オオタバコガ	1000						収穫14日前まで	1回	散布	1回
非結球あぶらな科葉菜類(ケール、からしな、みずな、ルッコラ、たかなを除く)	アブラムシ類	1500						収穫21日前まで			
しょうが	アワノメイガ	1000						25g/10a	収穫45日前まで	2回以内	2回以内
ごぼう	アブラムシ類		1回	2回以内 (株元散布は1回以内、散布は1回以内)							
オクラ	アブラムシ類、ミドリヨコバイ		1回								
ばれいしょ	テントウムシダマシ幼虫 ヨトウムシ	300	25g/10a	収穫30日前まで	2回以内	3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)					
	アブラムシ類										
てんさい	アブラムシ類、ジャガイモガ	1000~1500	100~300 g/10a	収穫45日前まで	3回以内	4回以内 (育苗期の灌注は1回以内、散布は3回以内)					
	ヨトウムシ テンサイモグリハナバエ	1000~1500									
	トビハムシ類	1000					育苗期	1回	灌注		
	ヨトウムシ	60~100					2.5~3 g/m ²	3回以内	無人航空機による散布		
	16	1.6 g/10a									
		300	25g/10a	収穫45日前まで	3回以内						
未成熟とうもろこし	アブラムシ類	1000	100~300 g/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内				

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	7ヶ月を 含む農薬の 総使用回数
あずき	アズキノメイガ、アブラムシ類 ヨトウムシ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいず	ハスモンヨトウ、アブラムシ類 マメシクイガ			16			
	アブラムシ類						
えだまめ	ハスモンヨトウ、アブラムシ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 21 日前 まで	5 回 以内	散布	5 回以内
いんげんまめ	アブラムシ類 インゲンマメゾウムシ			収穫 14 日前 まで			
たまねぎ	ネギアザミウマ	1000~1500	25 ℓ/10a	収穫 21 日前 まで	5 回 以内	無人航空 機による 散布	5 回以内
		300					
		16					
にんにく	ネギコガ、アブラムシ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
かき	カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ カキノヘタムシガ フジコナカイガラムシ	1500	200~700 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで			
いちじく	アザミウマ類	2000	200~400 ℓ/10a	摘採 45 日前 まで	1 回	散布	1 回
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	1000~2000					
		チャノコカクモンハマキ	1000~1500				
さんしょう (果実)	チャノキイロアザミウマ	1500	200~700 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	散布	3 回以内
だいおう	ヨトウムシ	1000	生育期 但 し、収穫 230 日前まで				
みしまさいこ	アブラムシ類	1500	100~300 ℓ/10a	収穫 30 日前 まで	5 回 以内	散布	3 回以内
薬用いんじん				収穫 180 日 前まで	5 回 以内		
ソルガム		収穫 30 日前 まで		3 回 以内			
やまのいも		1000		収穫 45 日前 まで	1 回		
葉しょうが		アワノメイガ		収穫 21 日前 まで	2 回 以内		
たばこ	ヨトウムシ、タバコアオムシ アブラムシ類	1500~2500	25~180 ℓ/10a	収穫 10 日前 まで			
	ヤサイゾウムシ	1000~2000	1 ℓ/m ²	苗床期			
	ジャガイモガ若齢幼虫 ジャガイモガ中齢幼虫	1500~2000	25~180 ℓ/10a	収穫 10 日前 まで			
つつじ類	ツツジゲンバイ	1500	200~700 ℓ/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
つばき類	チャドクガ						
さくら	モンクロシャチホコ	1000~1500	200~700 ℓ/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
	アメリカシロヒトリ	1500~2000					
花き類・ 観葉植物	アザミウマ類、アブラムシ類 アオムシ、ヨトウムシ類	1000~1500	100~300 ℓ/10a	発生初期	5 回 以内	散布	5 回以内
きく	マメハモグリバエ オオタバコガ	1000					
ストック	コナガ、ハイマダラノメイガ						
宿根アスター	ヨメナスジハモグリバエ						

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	7セフトを 含む農薬の 総使用回数
オンシジウム	カイガラムシ類	1000	100～300 ℓ/10a	発生初期	5回 以内	散布	5回以内
カーネーション	コナガ						
ひまわり	タバコガ						
斑入りアマドコロ リアトリス	ハマキムシ類						
樹木類	アザミウマ類		200～700 ℓ/10a	植付時	1回	10分間 球根浸漬	
グラジオラス			—				
芝	シバツトガ、タマナヤガ		0.25～2 ℓ/m ²	発生初期	5回 以内	散布	
	スジキリヨトウ、ケラ		1～2ℓ/m ²				
	シバオサゾウムシ成虫		2ℓ/m ²				
	アカフツヅリガ		0.5～1 ℓ/m ²				
もりあざみ	アブラムシ類	1500	100～300 ℓ/10a	収穫 45 日前 まで	1回	1回	
まめ科牧草		1000			3回 以内	3回以内	

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。
 - ◆ 内袋は濡れた手で触れないこと。
 - ◆ 外袋の開封後は使いきることが望ましい。
 - ◆ 薬液の調製は所定量の水の3分の1程度を入れた後、内袋を開封せずにそのまま容器内に投入すること。容器内に水を所定量まで加えた後、よく攪拌すること。
- 調製した薬液はできるだけ早くその日のうちに使用すること。
- てんさいの育苗期の灌注は薬液が茎葉に残っていると薬害を生ずることがあるので、軽く散水(0.5 ℓ/m²)して除去すること。
- てんさい・ばれいしょ・たまねぎに対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- さくらに使用する場合、夏期高温時には薬害を生ずるおそれがあるので避けること。
- カーネーションの品種によっては薬害を生ずるおそれがあるので、初めて使用する場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中薬液の漏れのないように、機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物及び諸物件に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ※ 誤飲・誤食などのないよう注意すること。
- ※ 本剤の解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- ※ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
 - 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ※ 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
 - 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ※ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ※ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ※ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ※ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。
 - 水溶性フィルムで包装した製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管し、できるだけ速やかに使いきること。